

2022 平和行動 in 沖縄に「北海道代表团」を派遣

連合北海道は、11月1日から5日の日程で沖縄県に18人の北海道代表团を派遣した。例年、「平和行動 in 沖縄」は6月23日（沖縄慰霊の日）を中心に実施されているが、今年は第26回参議院議員選挙があったため、6月の行動は代表者派遣にとどめ、改めて連合北海道独自の取り組みとして実施した。



今回の平和行動は、沖縄返還50年の節目の年でもあり、基地を抱える沖縄についてあらためて考え、基地問題に取り組む運動の前進につなげることを目的に、伊江島をはじめ、辺野古、道の駅か

でな、ひめゆり資料館、平和祈念資料館などを見学した。

平和行動1日目は、全道各地から沖縄への移動とし、2日目は伊江島に渡航、島内各所を伊江島観光バスの山城克己代表に案内いただいた。山城代表は、「伊江島は“沖縄の縮図”“沖縄戦の縮図”と呼ばれている。伊江島を見れば、沖縄の基地・観光・農業など、沖縄の構造がわかる」と、ニャティヤ洞（千人洞）や芳魂之塔、被爆慰霊碑など、限られた時間のなかで10ヶ所近くを案内した。

伊江島には反戦平和資料館をはじめ、アーニー・パイル記念碑や集団自決のあったアハシャガマなど、沖縄を一周しなければ見ることのできないものが伊江島にあることを紹介していただき、改めて「沖縄の縮図」「沖縄の現実」を学習した。

そして「わびあいの里」では謝花悦子代表理事が伊江島の歴史について「強制的に土地を奪われた伊江島真謝の農民は生きるために那覇の町で「こじき行進」を行い、全国に知れわたり、遠い北海道の炭鉱で働く労働組合からも、食べ物や服が送られてきた」と北海道と伊江島の関係について語り、最後に謝花代表理事は「平和より大事なものは無い。この世の宝は命であります。」と述べた。





3 日目は辺野古（キャンプシュワブ）を見学、その後、連合沖縄の事務所にて琉球新報社中部支社 島袋良太報道グループ長より講演を受けた。島袋グループ長は「沖縄には在日米軍専用施設の 7 割が集中しており沖縄に歪みをも

たらしている」「もう一つ問題点は、米軍専用施設というのは日米地位協定上、排他的管理権があり日本の法律が適用されない」「例えば沖縄で特に問題になっているのが水質汚染問題で米軍基地から流れ出た心疾患やがんの割合が高いデータがある消化剤（有機フッ素化合物 ピーフアス）が川で検出された。主権国家として国民の命に関わることができない」と沖縄の問題点をデータに基づきわかりやすく講演した。

4 日目は糸数豪（アブラチラガマ）に入り、ひめゆり学徒隊が岩に体を寄せ仮眠をしていた話や、平和資料館、ひめゆり資料館では生きるために体液の混じ



った泥水を飲む話に参加者は驚きを隠せなかった。その後、嘉数高台にて普天間飛行場に配備されている MV22 オスプレイ、道の駅かでなで嘉手納基地を視察し、平和行動すべての行程を終えた。

沖縄の米軍基地問題を解決する道は「米軍基地の整理・縮小」と「日米地位協定の見直し」の実現にこそあると改めて認識し、連合北海道は日米共同訓練の規模縮小とオスプレイ参加の反対運動を全力で展開していく。

